

# 品川支部

平成30年6月1日発行  
〒141-0022  
品川区東五反田1-8-5  
Tel. 3442-7075

## 6月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

## ひのきしんデイ 多くの方、ご参加有難う ございました

全国一斉ひのきしんデーに大勢の方のご参加有難うございました。  
大井中央公園・なぎさの森の関係者から、喜んで頂いているとの事でした。  
品川支部では、この後のおつとめ総会でも、食べ放題飲み放題で地域の教友と  
楽しい時間を過ごそうという、イベントを企画しておりますので、是非ご参加下さい。



## ☆支部行事のお知らせ

・支部例会

六月三十日

(詳細は2頁)

・神名流し

一日(金)十時から、大井町駅前にて

・在宅センターひのきしん

六月二十九日(金)午前九時半〜十一時

・教区ひのきしん

担当は桜京組ですので宜しくお願い致します

## ☆教務支庁からのお知らせ

・神殿屋根、瓦葺き替え工事

屋根瓦葺き替えの為、先日教務支庁の御目標様  
二階の大会議室に遷座され、本格的に工事が開始  
されました。

五月の7日からは大勢のひのきしんにて、屋根の  
古くなった瓦の取り外し等、活気にあふれた様子  
でした。

・東京オリンピック・パラリンピック

先日、パラリンピックの為のお手伝いとして、  
各教会にアンケートを実施、パラリンピックで  
の方の補助員の方を含めた宿泊可能な施設を  
募集したところ、十五教会約二百名が可能と  
一時で回答いただきました。内容はこれから  
話し合いになるようです。

・支部婦人会からのお知らせ

・鳴物講習会

教区では六月二十八日、二十九日  
午前十時から三時まで鳴物の講習会  
を行っています。琴爪、昼食は持参)  
尚、支部内でも、希望者対象に琴、  
三味線のお稽古をさせて頂いております。  
是非、個人練習に参加してください。

### 計報

神品川分教会、故、四代会長、  
現会長夫人の浅田右子(有子)  
刀自は五月十六日家族も見守  
る中、お出直しになりました。  
御年六十五歳でした。  
支部活動におきましては、ご婦  
人の人数が足りない中、会計を  
初めとして多くのお役を担って  
いただきましたので、ご家族の悲し  
みは言うに及ばず、廻りの関係  
者に大きな衝撃でした。  
ご生前の労に感謝いたし又おね  
ざらい申し上げます。

拠点教会	6月3日号	10日号	17日号	24日号
日本橋	手配り	手配り	手配り	手配り
本 荏	手配り	手配り	手配り	手配り
都 南	手配り	手配り	手配り	直 送
三ツ木	手配り	手配り	手配り	手配り
水豊田	手配り	手配り	手配り	手配り

時報手配り六月予定

# 品川支部例会

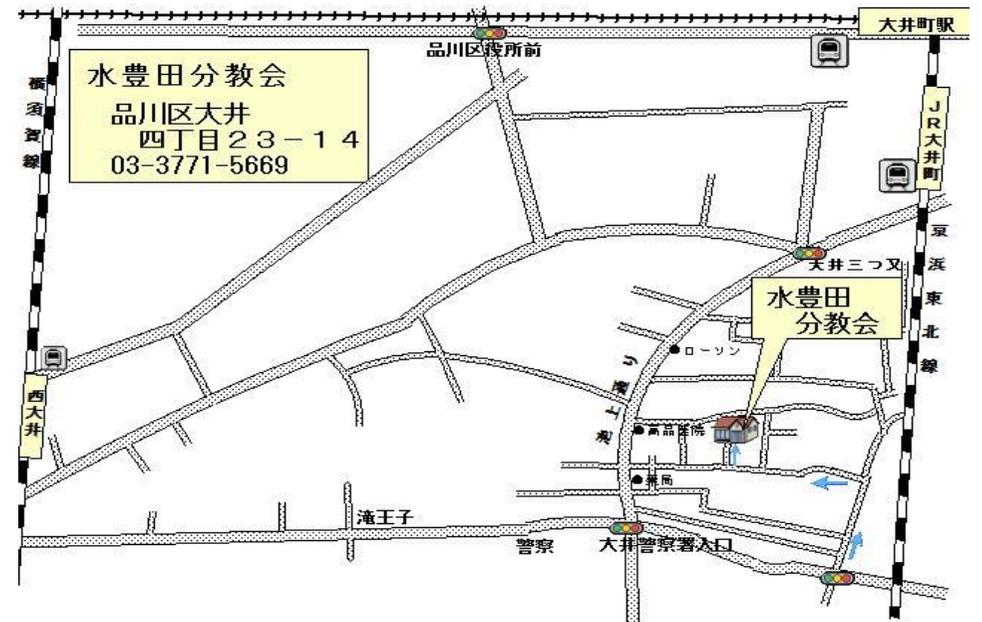
## 平成30年6月30日 (土) 11時開始

### 場所 水豊田分教会

(品川区大井四丁目23-14)

### 内容 座りづとめ よろづよ八首 六下目 東京教区、支部連絡事項 当該石田教会長挨拶 昼食の用意頂いてます

\*各教会の方のほかどなたでも (白足袋ハッピー着用)



## 教会紹介

### 本早川分教会



早川家の元は、岐阜のある大名の城代家老職の家柄であったが、武家を捨て、東京都へ出た後、中央区みなと町鉄砲洲町に鳥長という天ぷら屋を開いた、その後、長男早川光治郎が父親の家業を継ぎ近くに天光という天ぷらやを営み大いに成功した。光治郎は、荒行を受けた熱心な三十年来の日蓮宗の信者であったが、父長治郎が突然にわか盲になり医師、日蓮様にお願ひしたが治らず、長治郎と妻力ネは客から聞いた親神様の十全の守護とをびや許しの話に感服し共に御本部に参拝しておさづけの理を拝戴した。不思議な御守護を頂いた後、自分は天ぷら屋を閉じて現在の中央区佃島で布教を開始し明治三十六年に直すまで

熱心に布教を続けた。光治郎は日蓮宗なので御目標を所屬教会にお返しして日蓮の信仰を続けたが妻と死別し大正二年竹内てつを後添えとして迎えていた。大正三年突然に母親力ネは病名のわからぬ病氣になり加持祈禱をお願い致した処、貴方の家には誠に尊い神様を粗末にした靈が出ていると言われて、てつは天理様だとの思いで月島東河原通りの本月宣教所の教会を訪ねた。これが、てつの初めて天理教参拝だった。光治郎は天理教に反対しててつがなかなか教会に参拝が出来なかつた頃、長男貫一を初め五人の子供を抱え、大正十三年秋の頃てつは肺結核になり、残り一、二ヶ月の命と診断された。これを聞いた光治郎は信仰しても、もう一、二ヶ月と思いい望む天理教の信仰を許した。はじめに胸を張って信仰ができたてつは、病を押して朝四時に起き神様に参拝し毎日便所掃除をし、

子供等が学校に出かける時にをいがけに出た。何度か啖血をしながらも懸命に布教を続け必死に布教の道中を歩む中、いつしか結核もすっかり御守護を頂き、その後、更に四人の子室にも恵まれた。昭和五年には、おさづけの理を拝戴。光治郎の医者もおさづけで御守護を頂いたが、それから二ヶ月後今度は、てつが身上を頂いた。光治郎はお返しに、今度は俺が日蓮様にお願ひして治してやると神棚の燈明に、ローソクの灯りをつけて、経文を讀み始めた処、突然灯が消えた。直ぐに新しいローソクに灯をつけて再び経文をあげようとするとまた灯が風もないのに消えた。貫一に新しいく買いにやらせたがそれも消えた。光治郎はその場でも考えこんでいたが真っ青な顔をして立ち上がり、神棚に数珠を供えて、てつに俺が悪かったすまない事をした。俺も今日からお前と一緒に

天理教になって勤めると誓った。昭和八年光治郎はおさづけの理を拝戴夫婦揃って布教に従事となった。十年、夫婦で別席、十四年四月には光治郎を所長に東京市芝区三田四国町二番地一に本早川布教所設立に至り、昭和十七年に天理教本早川分教会と改称した。二十年四月、大空襲で教会は焼失し神奈川県中郡南秦野町に仮転居。二十一年の光治郎七十一歳出直しを経て、二十四年、二代てつと続く。昭和二十六年六月二十八日、西品川四丁目一二四五番地に移転。四十九年就任の三代貫一は永かつた兵役の後、修養科、本月分教会に入り込み、東京教務支庁書記等勤めたが、昭和二十七年鈴木安枝と結婚し友雄を初め、富夫澄枝と授かった。現会長は平成十四年からの務めとなつたが現在入院加療中で留守を富夫とてつの末娘の賞子が見ている。